

平成 26 年度茨城県海外子女教育・国際理解教育研究会帰任報告書

水戸市立石川中学校 津田 政徳

派遣先： タイ バンコク 泰日協会学校（バンコク日本人学校）

派遣期間： 平成 23 年 4 月～平成 26 年 3 月



校訓	教育目標
広い心で	○思いやりのある子 (徳育)
明るく	○創造性発揮し、積極的に学ぶ子 (知育)
なかよく	○心身の健康をつくる子 (健康)
たくましく	○国際性豊かな子 (国際性)

○在籍児童生徒数（平成 26 年 4 月 21 日現在）

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	中学部 1 年生	中学部 2 年生	中学部 3 年生	特別支援	合計
人数	427	449	444	353	391	157	246	244	172	12	3064
クラス	14	12	12	10	11	9	7	7	5	2	89

○職員数（平成 25 年度）総計 199 人

- 日本人教員…130 人
- タイ語教員…7 人
- 英会話教員…14 人
- 水泳指導者…4 人
- 事務職員…12 人
- 用務員・運転手…29 人



職員集合写真

○登下校

ほとんどの生徒がスクールバスを利用。バンコクは渋滞が激しいので、時間厳守で行動できるように意識させている。また、児童生徒数が多く、配車されるバスの台数も多いので、に把握しておく。



自分のバスへ向かう様子



下校時の職員の見送り

○大運動会（平成 24 年度まで）

小学部・中学部の全児童生徒が行う。

秒単位のスケジュール。

児童生徒の応援席にはテントを設営。

（用務員が全てのテントを設営してくれる）

児童生徒数の増加により平成 25 年度からは小学部，中学部別開催で実施。



大運動会（平成 24 年度）

（小中合同開催）



中学部体育祭（平成 25 年度）

○特色

- 小学部 6 年生の教科担任制…中学校での学習へのスムーズな移行のため。
- 図工科、音楽科の専科教員制 …小学部 1 年生の授業から実施
- 国際理解学習…交流学习会を近隣のタイの学校やインター校とそれぞれの学年が行っている。



小学部交流学习会



中学部交流学习会

• 外国語教育

小学部…週 2 時間、英会話を小学 3 年生から実施。

ネイティブスピーカーが授業を行う。

クラスを 2 グループに分けて少人数で実施することもある。

中学部…週 4 時間の英語の授業。

ネイティブスピーカーとの T T の授業を 1 時間行っている。

英会話は週 1 時間、ネイティブスピーカーが 2 グループに分け少人数で授業を行っている。



小学部英会話の授業風景

タイ語の授業を各学年週 1 回実施。タイ人の教員が指導を行っている。

- 校外学習…全学年で実施。

タイの文化や歴史に触れる学習を通して現地理解と国際理解教育を行い、日本や世界について改めて考えさせる。また、保護者の働く日系企業や、ODAで設置・運営されている施設などを訪問して日本の関わり方や進路について考えさせている。



アユタヤ世界遺産



国際空港校外学習

・臨海学校・修学旅行

臨海学校は小学5年部で実施。バンコクから南へ約200kmの都市で2泊3日。

小学6年部は修学旅行。バンコクから北へ1000kmの都市で2泊3日。現地の学校とも交流を行っている。

中学2年部も修学旅行を実施（シンガポール・3泊4日）。現地の大学生と英語を使って交流し、班別活動も行っている。



シンガポール修学旅行

○夏期研修旅行（職員）

現地の学校教育を通して現地理解・国際理解について考え、今後の教育活動にいかすために、タイ国内の地方の学校を訪問。数人のグループになり、実際に幼・小・中の児童生徒に授業を行う。



中学3年生への授業



幼稚園生への授業



現地の学校の生徒



学校の廊下を歩く犬

○危機管理

- ・洪水（2011年9月～11月）

《対応》

臨時休校や緊急一斉下校を行った。洪水の時期、多数の児童生徒が日本へ一時帰国をした。担任は毎日、児童生徒の所在確認と報告を行った。また、それぞれの児童生徒を受け入れる日本の学校へ一時編入の手続きを行った。

学校再開後、バンコクに残っていた児童生徒に対して、特別のクラス編成、特別授業を実施。

- ・デモ（2013年11月～）

デモが予想される日時や場所について、大使館から随時連絡が入った。

《対応》

臨時休校や緊急一斉下校を行った。



学校前、洪水対策用土のう

○生活・くらし・文化

- ・バンコクはタイの首都であり大都市である。
- ・様々な国の言葉が飛び交う。観光客は多い。
- ・毎日が真夏。スクールにより冠水する場所もある。
- ・信仰心が厚い。親日家。
- ・香辛料の多い食べ物。果物の種類が豊富。日本食も多い。



平成 23 年東日本大震災津波被害への寄付呼びかけ



街角で日常的にお祈りを捧げている人々

○終わりに

- ・視野が広がり、世界情勢についてさらに考えることができるようになった。
- ・海外から日本について見つめ、日本政府や企業の世界への貢献や関わりについて知ることができた。
- ・日本全国各地から派遣された教員と出会い、教育に携わった毎日は研修であった。
- ・卒業まで一緒に生活することができず、見通しをもって指導を行うことが困難な状況で、児童生徒に対してどれだけのことができるのか考えた。
- ・1年の間に、半数近くの児童生徒が転出入をするという日本とは異なった環境で学習を進めている児童生徒に対して、どのような授業展開や指導が効果的な考えた。
- ・様々な場面で、茨城県派遣であることを伝えると、それだけで信頼されることが多かった。今までに派遣されてきた諸先生方の活躍を感じ、自分も少しでも貢献しなければならないと思い、身の引き締まる思いであると同時に、郷土に誇りをもつことができた。
- ・人と人との絆の大切さを改めて感じた。